

フェアトレード啓発事業

●協働先 NGO/NPO

（特活）横須賀国際交流協会

WFTO 認証フェアトレード団体 ネバリ・バザーロ

実施地域

横須賀市内

事業実施期間

2008年～継続中

協力形態

事業協力



イベントでフェアトレードコーヒーをPR

実施内容

- ・国際交流課所管の国際式典（年4回）では、レセプションのコーヒーをフェアトレードコーヒーに切り替え提供し、PRを実施
- ・国際交流課所管行事（NPO 法人横須賀国際交流協会への委託事業を含む）で可能なものは、フェアトレードコーヒーを提供するスペースを設け、参加者に国際協力（フェアトレード）体験を実施
- ・横須賀市が主催する集客イベント等で、フェアトレードコーヒーブースを設け、体験等啓発を実施
- ・横須賀市委託事業「多文化共生講座」で、フェアトレードセミナー（主催ネバリ・バザーロ）視察、セミナーでは横須賀市の取組みについて事例発表を実施

事業目的／背景

横須賀市民憲章の初項に「すべての国々や人々との交流を深め、国際社会に貢献します」と謳い、国際貢献の重要性と必要性を訴えている。その国際協力活動の一環として、フェアトレード（公正貿易）の啓発を始めた。また、平和啓発事業、次世代育成事業と関連づけて啓発を行っている。

協働のきっかけ

（特活）横須賀国際交流協会が自主事業でフェアトレードコーヒー豆の販売を開始したことがきっかけ。

役割分担

自治体側：

啓発や提供場所の調整

NGO／NPO側：

フェアトレードコーヒーの仕入れ等準備

協働によるメリット等

メリット：

それぞれの参加者等の声を聞くことができる。

メリットがデメリットにならないためのポイント：

実施に際し、見識に多少の食い違いがある場合がある。例えば、自治体側では、フェアトレードコーヒーを介した国際協力への意義を重視しているが、NPO側では、フェアトレード製品の周知を重視している節がある。

協働する上で配慮した点

事業者の斡旋ととられないよう配慮した。

事業実施までの問題とその対応

コーヒー納入事業者の斡旋ととられないように、自治体の役割を啓発のみと明確にし、市長までの方針決裁をとった。



式典等でフェアトレードコーヒーを利用している

事業評価／今後の展望

市役所内の会議でもフェアトレードコーヒーを提供するところが増えてきている。継続的に啓発を行なうことも国際協力の一環と考え、活動を続けていきたい。

2011年度には、横須賀市新実施計画に「フェアトレード啓発の推進」と、横須賀市新環境基本計画には「環境と調和した経済活動の推進」として「フェアトレード製品の普及啓発」及び「環境と調和した社会活動の推進」として「フェアトレードの普及促進」を盛り込む予定。

WFTO認証フェアトレード団体 ネパリ・バザーロ

ネパールを中心としたアジア諸国の、ハンディクラフト製品や食品の企画・開発を行い、継続的に輸入を続けることによって、現地での就業の場の拡大を目指すフェアトレード団体で、1992年から活動している。立場の弱い人々、女性、子どもの自立を支援し、貧困の課題改善に取り組んでいる。